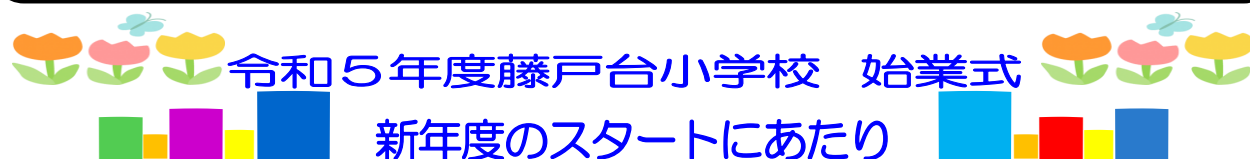




ふじとだより

和歌山市立藤戸台小学校

令和5年4月10日号



春の暖かい風が穏やかに吹く季節となりましたが、保護者の皆様には、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本校では、明日の入学式において新入生 150 人を迎え、全校児童 937 人で令和5年度の教育活動を開始いたします。

保護者の皆様、ご家族の皆様、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。皆様には、新型コロナウイルス感染症対策及びコロナ禍における学校行事等、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

【令和5年度の学校生活の開始に当たり】



コロナ禍においてこれまでの学校生活を振り返りますと、令和2年の2月末から、和歌山市においても市立すべての学校と幼稚園が臨時休業となりました。その後、臨時休業のまま3ヶ月近くがたち、混乱と不安の中、6月1日からは分散登校が始まりました。それから3年が経過します。この間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、授業や学校行事などが縮小、または取りやめを余儀なくされましたが、コロナ禍においても感染症対策による様々な制限のある学校生活の中でも、お子様の安全な学校生活を第一に考え、感染症対策を講じながら教育活動を継続し、学びの保障に取り組んでまいりました。しかし、少しずつその生活も元にもどりつつあります。



4月1日から、学校生活におけるマスクの取扱いが変わりました。新学期以降の学校におけるマスク着用の考え方について、「ふじとだより(3月24日発行)」でお知らせしましたように、政府新型コロナウイルス感染症対策本部決定においては、「4月1日以降の新学期におけるマスクの着用」については、「学校教育活動の実施に当たっては、マスクの着用を求めないことを基本とする」等とされました。マスクをつけるかつかないかは、個人の判断に委ねられます。そして、その意思は尊重されなければなりません。

3年間に及ぶマスク着用の生活を通して、子供達にはマスクを外すことについて不安を抱く子もいることと思います。学校では、引き続き基本的な感染症対策を講じながら、新型コロナウイルス感染症に関わる子供達一人一人の意思を尊重し、個人の考え方に対する差別や偏見などが起きないように、今後も指導してまいります。また、コロナ前に戻すことができる教育活動、継続していくことが望ましい取組、それぞれを見極めながら、今後の教育活動を推進してまいります。

本日より、大切に育ててこられたお子様を確かにお待ちしております。全校児童 937 人が安心して学校生活を送れるように、安全を第一に、お子様一人一人が豊かに過ごすことができるよう、また、一人一人の可能性を最大限に伸ばすよう、教職員一同、温かな教育環境を築いてまいります。「子供達が互いに違いを認め合い、共に学び、成長していくこと」に重点をおいた教育活動を推進し、また、「ご家庭・地域の皆様と共に子供達を育てていく」という視点に立った学校運営を心がけ、皆様と共に歩み、全力で教育活動に励みます。保護者の皆様には、学習での支援、登下校の安全等で大変お世話になりますが、本校の教育活動に対しまして、ご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和5年4月10日 学校長 堀本 純平

